



トピックス

「いわきの産地を巡るバスツアー」開催

平成24年2月18日(土)～19日(日)に、市内の小学生親子を対象とした「いわきの産地を巡るバスツアー」が1泊2日で開催されました。

この事業は、本市からの「いわき農山村ふれあい交流事業」の委託を受けてJAいわき市が実施したものです。平成23年度は9月、12月にも行われており、今回で3回目の開催を迎えます。当日は晴天に恵まれ、10組の親子25人が参加しました。

1日目は、四倉町の大野水耕生産組合でいちごの収穫体験が行われ、真っ赤に熟したいちごを嬉しそうに頬張る子ども達の姿が見られました。



その後は小川町のファーム白石で大根・人参の収穫体験、草野グリーンファームで水耕葉ねぎの収穫体験が行われました。夜は天文同好会の皆さんと星空観察を行い、参加した子ども達の間でも交流が生まれ、楽しい夜となったようです。

翌日は、山玉町の加茂農産でなめこの収穫体験が行われ、参加者の間からは「なめこってピンでも作れるんだね」と、驚く声も聞こえてきました。

その後はパレスいわやで調理実演会が行われ、2日間で収穫した地元の野菜・キノコを使った料理が参加者にふるまわれました。参加者は、この2日間のツアーを通して、収穫の楽しさや、地元農産物の美味しさを実感していたようです。



さて、今年2月2日(木)に小久地内の水田において、県主催の「農用地除染に伴う反転耕実演会」が開催されました。県では、水田・畑作の除染対策として「反転耕」を推進しており、県内各地で実証試験が行われています。

説明後は、近くの水田に移動して、実演会が行われました。まず、放射性セシウムを吸着固定させるため、ゼオライトを10アールあたり300キログラム散布します。次に、表層と下層を入れ替える「反転

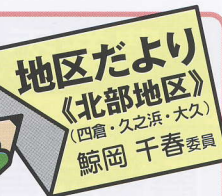
耕」を30cmの深さで行います。今年2月2日(木)に小久地内の水田において、県主催の「農用地除染に伴う反転耕実演会」が開催されました。県では、水田・畑作の除染対策として「反転耕」を推進しており、県内各地で実証試験が行われています。



ました。参加者達からは積極的に質問もあり、あらためて農地除染への関心の高さを感じました。



実演会後に空間線量を計測したところ、平均で0.1～0.2マイクロシーベルト下がること確認でき、参加者は反転耕の効果を実感したようです。今年1月にはいわき市除染実施計画も発表されており、今後は農用地の除染についても計画が進められる予定です。しっかりと除染作業をして、生産者が自信と誇りを持って、安全安心な農産物を作れるようになりたいものです。



反転耕で農用地除染を目指す！

反転耕の実演会開催

編集後記

東日本大震災、原子力発電所事故から1年が過ぎました。いわきの農地にも放射性物質が降り注いだことは、紛れもない事実です。平成23年度米からも、安全と言われる範囲ではありますが、僅かな数値が検出された検体がありました。長い年月をかけ、丹精込めて作り上げてきた農地を取り戻すために、今後も官民が一つになつて農地の除染作業を進めていかなければなりません。

青い海と燦々と降りそぐ陽光、緑いっぱいのいわきで、声高らかに「地産地消」を謳い農産物を作る。

そんな当たり前の日常をおくることができる農業者でありたいと、感じるこの頃です。

(執筆 鯨岡 千春委員)

編集委員

三戸 進 渡邊 一雄
遠藤 靖 鯨岡 千春 草野城太郎